

どんびきま

2007年12月12日発行
発行者 椋の湖農業小学校

1年間ありがとう

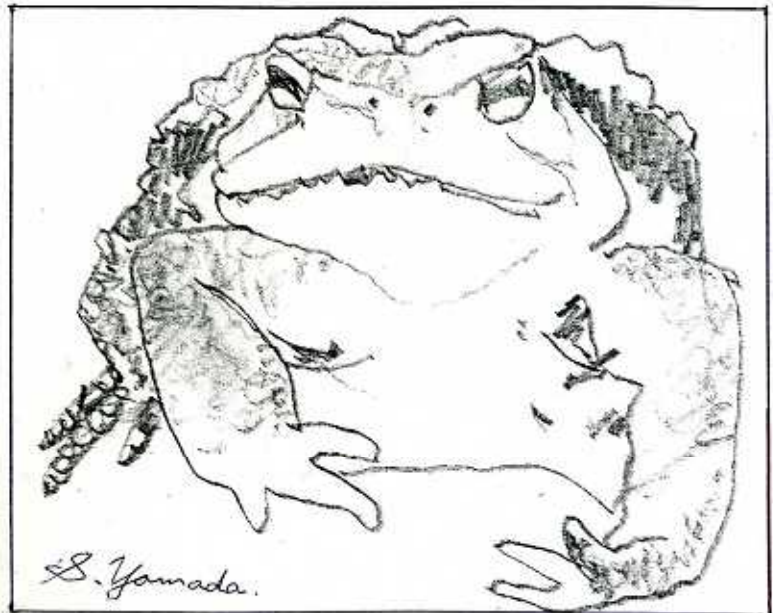
3月からの農小いかがでしたか。前年までは先生方が前日までに準備し種まきのみ体験でしたが、今年から草取り、堆肥入れから皆さんに頑張ってもらいました。

しかし、天候不良と虫の害により大根、白菜、蕪などはだめでした。竹炭酢もあまり効果がありませんでした。

ですが、さつまいも、かぼちゃ、さといもは動物にも食べられず無事収穫できました。昨年約束した「お米 200kg」の目標も達成することができました。

田の水管理の林さん、糸魚川先生、電気柵周囲の草刈りをしてくれたキャンプ場スタッフに感謝します。

来年は教室(畑)の場所を変えて野菜づくりをします。来年もがんばりましょう。(農場長 鈴村恒夫)



ヒキガエルの再登場です。ヒキダ、ガマ、ガマガエルともよばれています。この辺でどんびきといえば「ヒキダのことやら」という人もいます。日本には約30種のカエルが棲息していますが、農業小学校近辺で確認できたのは、どんびき98号から106号に紹介した9種類でした。どの種も昔より棲息数がかなり減っているようです。更にカエル界では今、種の絶滅に繋がりがかねないツボカビ病の蔓延が危惧されています。

～ 課外授業のお知らせ～

課外授業の物づくり体験のシーズンがやってきました。今回も12月・1月・2月と3回を予定しておりますので、興味のある方は是非ご参加ください。

- * 12月23日(日) しめ縄づくり。わら細工。
- * 1月13日(日) 和凧づくり。竹細工。(当日は「佐義長」が予定)
- * 2月17日(日) 染め物。ひも結び。
- * 費用は材料費昼食代込みで毎回1000円(一人)
- * 場所は中津川市下野庚申堂前「青年の家」R257(中津～下呂)の途中「下野」交差点(バス亭)より東へ車で約1分(徒歩約5分)
- * 凧作りは事前に障子紙に絵を描いて持参されると、出来上がりが早くその日に凧揚げができます。(A3サイズ・33×47・42×59cmが適当)
- * 染物はハンカチ、Tシャツなどをご用意ください。
- * 都合により変更もありますので、事前に連絡の上確認をしてください。尚材料調達の都合もありますので、1週間くらい前までにお申し込みください。

*連絡先Tel & Fax 0573-72-4835 スタッフ小林まで
~とくちゃんの農小レポート~

あっという間の一年間！文集にも載ったよ

3月の入学式からあっという間の一年間でした。11月はもう卒業式です。中津川市の市長さんも来て下さり、二時間近くも交流を深めたうえ、農業の大切さと食育の必要性についてのお話も頂きました。

1 午前の授業。 まずは卒業試験？のごぼう堀りに挑戦しました。この日ばかりはお父さん方も大奮闘でした。大きなものは2~2.6キロも有り、普段お店で見るとは大違いの不格好な形でしたが、見掛けとは違いとても味が良いと好評です。ねぎの収穫も行いましたが、葱は冬の寒さに強い野菜ですから、霜を受けると甘味が増してきます。特に下仁田葱は何度か霜に当てないと甘くて柔らかい葱になりません。

2 昼食。 収穫感謝祭と云うことで、盛り沢山の郷土料理が並びました。まずは定番の五平もち、芋もち、ぜんざい、から揚げ、おでん、サラダと食べきれないほどの豪華版です。毎回おいしい料理を提供して下さる、厨房スタッフの皆さんには感謝です。

スケジュールの都合により、昼のときに市長さんのご挨拶があり、食育の大切さと、農小で体験されている生徒や保護者にエールが送られました。

3 子供市場。 二時までの昼休みを利用して子供市場が行われました。加藤大陸リーダーの指示により、農小で採れた野菜の一部と、アボ兄の持ち込んだ野菜を、元気な声で売りさばきました。下仁田ねぎの注文も沢山あり、アボ兄は大喜びでした。これで賞品に出してくれた分はペイ出来た？事でしょう。

4 卒業式。 午後二時より来賓を迎えての卒業式が行われました。

* 卒業証書授与。椋の湖農小の特徴ともなっている、木製の卒業証書が校長より一人ひとりに手渡されました。一年間の思い出や卒業までの思いを記した文集と、今年田んぼで収穫したお米と、姉妹校の荒城農小からプレゼントされた美味しい林檎と、保護者から提供されたお菓子とが、それぞれのグループ担当の先生から手渡されました。

* 皆勤賞。一年間休まず出席した生徒12名が表彰され、賞品として小豆をもらいました。

* バケツ稲コンクール。農場長より今年一年のまとめがあり、野菜の一部に不作があったものの、お米は豊作であったと報告がありました。バケツ稲コンクールの上位6名には、シクラメンの花が賞品となり、他の生徒には大豆が参加賞となりました。

* 案山子コンクール。小林スタッフより物づくりのまとめと、休校期の説明のあと表彰があり、上位4名には野菜やもち米が賞品となりました。

* 生徒代表あいさつ。加藤君と小河さんが代表して、今年の感想と6年間の思い出を話しました。二人の言葉の中では、とても良い思い出が出来たということでしたので、スタッフ一同にとっては来年に向けての、一層の励みとなることでしょう。

* 保護者代表挨拶。浦田さんより保護者を代表して、農小で行われている色々な活動が、この時代にとっても大切な事であり、食育や物づくりを通じての子供の成長が見れることから、農小の存在価値を認めて下さいました。

* 先生代表挨拶。吉村先生が代表して、一年間よく頑張ったことや、辛い農作業のあとの収穫の喜びについて話され、是非来年も来て下さいとの呼びかけもありました。

* 来賓挨拶。地元坂下総合事務所所長さん。荒城農業小学校代表。つくば農業研究所研究員。それぞれからお祝いのお言葉をいただきました。

* 祝電披露。長野県須坂農業小学校よりの祝電が披露されました。

* 校旗降納。6年生全員で校旗を納めました。

* 閉会挨拶。安保校長から一年間の反省と感想、来年(15期)に向けての生徒募集の呼びかけがあり、椋の湖農業小学校14期の幕を閉じました。

5 持ち帰り。苦勞して掘った牛蒡。ねぎ。アボ兄提供の大根。

～あぼ兄の百姓ばなし～

忘れられない味噌汁の味

あぼ兄の母校、下野小学校は新校舎と旧校舎とが長い渡り廊下でつながり、その中間に炊事場があった。この時期(冬)になると、白いエプロン姿のお母さんたちが当番制で味噌汁給食をしてくれた。お昼近くなって味噌汁の匂いがしてくると、いつも腹のへっていた我々子どもたちにはたまらなかつた。味噌汁の具といえば、大根と小さく小さく切った豆腐が入っただけだった。当時の弁当のおかずといえば、まず梅干とタクワンだけだったから、味噌汁はおかず代わりになっていたし、そのあったかさが何よりのご馳走だったことを思い出す。

作家の開高健さんは自伝的小説「青い月曜日」で、『敗戦直後の学校の昼休み。楽しげに弁当を広げる級友たちに気づかれぬよう「私」は決まって教室から姿を消す。体操場裏の水道で水を飲む。弁当も持参できずに昼休みをそうして過ごすのだった。』と書いている。そういえば、あぼ兄の級友たちの中で、家事・家業の手伝いといって学校を休んでいた者たちの本当の理由は「弁当を持ってこられない」そのことだったかもしれない。

日本で最初の学校給食は1889年、山形県鶴岡町の私立忠愛尋常小学校で始まって、次は1907年の広島、秋田で始められた。今年でちょうど100年になる。

戦後ユニセフやアメリカなどからの援助物資によって再開された学校給食を、継続して実施するために1954年には学校給食法が制定された。これは給食を教育の一環として位置づけ、児童・生徒の健全な発達と国民の食生活の改善を目的としていた。

このたび、施行以来初の法改正が検討されていて、主たる目的を従来の「栄養改善」から食の大切さや文化、栄養のバランスなどを学ぶ「食育」に転換する方針のようだ。つまり給食を栄養補給の場とするだけでなく、食材の生産者や生産過程、流通や食文化などを学ぶ場とし、地場産農産物の活用や郷土食、行事食の採用を積極的に進めるというものだ。生産者との交流や生産現場での体験を通じて、感謝の念や郷土への愛着を育てるとも明記されている。

椀の湖農業小学校では14年前の開校から、農業体験はもとより、郷土食、農作業の暦にあわせた祝い食・ねぎらいの食などを取り入れてきた。

百姓のあぼ兄は昭和44年2月12日付の新聞記事を今でも大切にしている。そこには大きな活字がおどっている。「コメとパンとの戦争」「学校給食の奪い合い」とある。米がだぶつく時代になって、生産農家や親たちが『コメをつくっている者の息子や娘が、なぜアメリカ小麦のパンを学校で食わなければならないのか』という疑問をぶつけたことから、コメ給食が考えられて、これを支援するお米屋さんの団体とパン（製粉）業界との激しい争いに発展したという記事だ。

パン側は「児童の体位向上はパンのおかげ」と主張、はては「コメの飯を食うと頭が悪くなる」とまで言い出して泥仕合の様相になった。

ある研究者は「子どもの体位向上はコメ、パンの関係でなく、栄養管理された副食のためだ」「コメの方がタンパク価が高く、食品としてはコメの方が上だ」という。当時の計算で、仮に全てコメ給食にしても全国の在庫米の1割にもならないとあったが、これは量の問題ではない。

学校給食から入ってきたパン食が、日本の食文化、食体系を変えてしまった。自国の小麦を日本に輸入させようというアメリカの策にまんまとはまったともいえる。

瑞穂の国が米を余らせたいうで、自国で取れない食料をさらに輸入に頼り、自給率の数字を下げ続けている。あの思い出の味噌汁の味噌の原料、大豆にしても95%を輸入に頼っている。

その間に、農地は荒れ、農村風景を変えてしまっている。これはいうまでもなく日本という国の問題である。国を考え、国を守ろうとするなら、なにより先に食料の自給をはかることが大事だと思う。あの忘れられない味噌汁の味は、お母さんの味、ふるさとの味、そしてもう戦争は終わった

という安堵・平和の味なのである。

平成19年第14期椛の湖農業小学校

案山子コンクール 表彰者名簿

人気投票上位表彰

第1位	(17番)	「海賊」	3G	近藤	瑠南	一家
第2位	(19番)	「鬼太郎」	2G	堀下	尚幹	一家
第3位	(12番)	「ベビー」	1G	中島	麻琴	一家
〃	(4番)	「カルビーおじさん」	5G	品川	紫穂実	一家

特別表彰

オシャレで賞

(5番)「オシャレな」 3G 北原 梨彩 一家

雀の目が回るで賞

(20番)「風車」 4G 加藤 吏織 一家

雨にも負けないで賞

(1番)「水中眼鏡」 5G 今村 洋輔・安香音 一家

流行で賞

(2番)「メタボリック」 4G 駒田 道哉 一家

(18番)「メタボリック」 2G 大宮 有美香・慶久 一家

小粋で賞

(24番)「子若」 3G 阿部 星香・風花一家

目立つで賞

(9番)「赤アフロ」 5G 木谷 颯希 一家

(28番)「金髪」 2G 堀口 麻希 一家

人気者で賞

(6番)「アンパンマン」 1G 木下 泰雅 一家

(22番)「孫悟空」 3G 中野 雄次郎 一家

努力賞

(3番) 3G 木村 友美 一家

(7番) 5G 井堂 駿 一家

(8番) 2G 菱田 喜京 一家

(10番) 4G 梶浦 義斎 一家

(11番) 3G 小林 さくら 一家

(16番) 4G 平田 沙耶花 一家

(23番) 1G 諸節 凌平 一家

(29番) 1G 奥田 朝紗乃 一家

() 1G 山瀬 あかり・のぞみ 一家

() 1G 松浦 茉央 一家

() 3G 安井 嘉輝 一家

() 4G 中島 裕菜・玄 一家

() 5G 三橋 知典 一家

皆さん、個性あふれる楽しい作品をありがとうございました。

一家協力しての作業もほほえましく、見せてもらいました。